

序論) ただほど高いものはない？

みなさんは、「ただで家をあげるよ。」と言われたらどうするでしょうか？ 素直にただで家をもらうでしょうか。それとも、何かを警戒して断るでしょうか。

日本には「ただほど高いものはない」ということわざがあります。これは「無料で提供されるものには、実際には思わぬ支払いや代償がともなうから、注意しなければいけない」という意味があります。

だから、例えば先ほどの家の例で考えると、「ただで家をあげるよ」といわれても、実際にそれを使えるようにするためには莫大なりフォーム代がかかったり、その家が実は近隣の人々に大きな迷惑をかけているような物件で、その家の持ち主は周りの人たちに何か賠償をしなければいけないような物件だったり、するかもしれません。

だから、私達は経験的に「ただであげるよ」と言われても、手放しで素直にそれを受け取ることができないのだと思います。

今日は、そんな私達に対して神様が、お金を払わず、代価も払わずに穀物を買えと言われている箇所です。なんで神様はそんなことを言われるのでしょうか。何か畏があるのでしょうか。

聖書のみことばから、神様の真意を探っていきたいと思います。

1) 無料で買え

まずは1節を読んでみましょう。

55:1 「ああ、渴いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。

日本語訳だとわかりにくいのですが、「水を求めて出て来るがよい」の「出てくる」と、「さあ、穀物を買って」と、「さあ、金を払わないで」の「さあ」は同じ「レクー」というヘブル語が使われています。だから、直訳すると

55:1 (直訳) 「ああ、渴いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。出て来い、穀物を買って食べよ。出て来い、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。

神様はとにかく「出てこい」と言っておられます。

罪によって神様に裁かれる対象になったイスラエル。そして、同じように罪を持つ私達に対して「出てこい」と言っておられるのです。

なぜでしょうか。お金を払わないで買い物をさせるためです。

お金を払わないで買い物って、矛盾していますよね。

なんで神様がこんなことをいわれるかということ、神様ご自身が私達の必要を満たすための代価を払ってくださるからです。

いふなれば、これは神様が、私達の飢え渴きをみたすものを与えるために奢ってくださる。ということばです。

なぜでしょうか。それは私達が本当の意味で私達を満たすことが出来ないものに、お金を払い、犠牲を払い、苦勞しているからです。2節を読みましょう。

55:2 なぜ、あなたがたは、食糧にもならないもののために金を払い、腹を満たさないもののために勞するのか。わたしによく聞き従い、良いものを食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元氣づく。

最近、TEMU という通販サイトが有名なのをご存知でしょうか。

この TEMU は中国製の色々な商品を格安で買えるサイトです。

例えば、これを見てください。これはメガネとか宝石とかを洗う超音波洗淨機の商品ページですが、なんと超音波洗淨機が 543 円で売られています。

超音波洗淨機なんていうものは格安でも 6000 円とか 7000 円、普通なら 15000 円とか 20000 円します。でも、TEMU では 543 円で売っています。これは超音波洗淨機ではないからです。これを分解してみるとただモーターがついていて、モーターの振動で超音波が出ているように見えるだけです。だから、これでメガネとか宝石とか洗おうとしても何も洗えません。

神様からみると私達は、このようなものにお金を払ったり、犠牲を払ったり、苦勞したりしているようなものだ。というのです。

なぜでしょうか？ このイザヤ書が書かれた当時のイスラエルは、人々を助けることも、救うことも、自分で動くことができないような偶像のために、犠牲を払ったり、生贄をささげたり、苦勞したりしていたからです。

現代の私達も、私達の魂の飢え渴きを本当の意味で癒やし、満たすことができるものには目を向けず、私達を癒やすことも、救うこともできないもののために一生懸命、お金を払ったり、犠牲を払ったり、苦勞したりしています。

だから、神様は、「あなたが頼っているものは無意味なものだから、あなたたちを本当の意味で満たし、元気づけることが出来るわたしの前に出てきなさい」と言われているのです。

イエス様も言われましたね。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ 11:28) なぜ、イエス様がこのようにいわれたのですか。イエス様が、わたしたちが背負っているくびきをともに背負ってくださるからです。さらにいうならば、私達が支払うべき罪の代価をイエス様が代わりに十字架の上ではらってくださったからです。

神様は、私達を本当の意味で満たすために、私達の変わりに代価を払い。私達にただで恵みを買わせようとしておられるお方なのです。

だから、私達は自分の殻の中に閉じこもっているのではなくって、神様の前に出ていく必要があるのです。みなさんは神様の前に出ておられるでしょうか。

みなさんを本当に満たすものは、この世のものではないのです。

この世の美味しい食べ物とか、休息とか、楽しみも良いですけど。でも、みなさんが本当に満たされ、癒やされるためには、みなさんのために代価を払われた、神様の前に出ていくしかないのです。

2) 約束に耳を傾けよ

では、神様の前に出たら次はどうしたらいいのでしょうか？

神様の前に出たのなら、神様の約束を聞くのです。3節を読みましょう。

55:3 耳を傾け、わたしのところに出て来い。聞け。そうすれば、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたと永遠の契約を結ぶ。それは、ダビデへの確かで真実な約束である。

「出て来い」といった後、「聞け」といわれていますね。

それはなにかというと、神様が私達と結ばれる永遠の契約、ダビデへの確かで真実な約束です。この「ダビデへの確かで真実な約束」という部分を直訳すると「ダビデへの信頼できる愛」となります。神様は、ダビデに対して信頼できる愛の契約、しかも、永遠に続く契約を結ばれました。それが何かというとⅡサムエル記7章に書かれている契約です。その契約の代表的なところを読みたいと思います。

7:12 あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。

7:13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。

これは簡単に言えば、永遠の王国を立てあげる一人の王様をダビデの子孫から起こすよ。という約束です。当然これは、ソロモンのことではないし、ソロモン以降のダビデ王朝の王様、つまり、南ユダ王国の王様のことではありません。なにせ、ソロモンの後のイスラエルは南北に分裂するし、南ユダ王国もバビロンによって滅ぼされますから、ソロモンやそれ以外の王様たちはこの神様の約束に当てはまりません。では、この永遠の王国をたてるダビデの子孫って誰かかというと、私達の救い主、イエス・キリストです。【主】イエス・キリストは永遠の国をお立てになる王様なのです。だから、イザヤ書に戻りますが、4節、5節にはこのように書かれています。

55:4 見よ。わたしは彼を諸国の民への証人とし、諸国の民の君主とし、司令官とした。

55:5 見よ。あなたが、あなたの知らない国民を呼び寄せると、あなたを知らない国民が、あなたのところに走って来る。これは、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者のゆえである。主があなたを輝かせたからだ。」

イエス様は、ダビデ契約によって約束された永遠の国の王様です。でも、このイエス・キリストはイスラエルだけの王様ではないのです。諸国の証人となり、諸国の君主となり、諸国の司令官となる。つまり、世界中の民の王様なのです。だから、私達が本当に【主】によって満たされ、癒やされようとするとき、神様の前に出ていき、神様がダビデ契約で約束された。

永遠の国の王、しかも、世界中からその国の国民を集めてくださる世界の王を神様が立ててくださるというこの約束を聞く事が必要なのです。

当然、この聞くというのはただ耳に入れるということではなく、この約束を確かなものとして信じ受け入れることを指しています。

みなさん、【主】イエスキリストは、ダビデに約束された永遠の国の王であり、世界中から私達を呼び集めてくださる私達の王です。

このお方を自分の王として受け入れ、このお方の民となるときに、私達は満たされ、癒やされるのです。

これはですね。基本的にはイエス様を信じることなんですけども、でも、イエス様を信じてキリスト者になった後も、満たされないと感じる時、魂の飢え渴きを感じ

じるときがありますよね。その時に、自分は本当の意味でイエス・キリストを自分の王様にしているか、自分の司令官にしているか、自分の君主にしているか吟味する必要があります。

なぜならば、イエス様を信じているけども、いつのまにか自分の心の王座を、自分の主導権を【主】から自分の手に戻してしまっていることがあるからです。

みなさんは心の王座を今もなお【主】に明け渡しておられるのでしょうか。自分の主導権をキリストにゆだねておられるのでしょうか。

ダビデへの約束を聞くということ。この方が君主であり、司令官であるということを知ること、このお方に自分の王座を明け渡すということです。

3) 【主】に帰れ

これはですね。いつかやればいい。という問題ではありません。後回しにしていい問題ではないのです。6節を読みましょう。

55:6 【主】を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。

これは神様から悔い改めのチャンスが与えられている内にその招きに応えなさい。ということです。この言葉には一種の緊急性が込められています。

いつまでも、永遠に【主】のところにいくチャンスがあるわけではない。ということです。【主】からの呼びかけがなくなるときが来るということです。

だから、私達は、私の前に出てきなさいといわれている内に【主】の前に出ていき王座を明け渡すのです。これはクリスチャンになった後も必要なことです。

続けて7節を読みます。

55:7 悪しき者は自分の道を、不法者は自分のはかりごとを捨て去れ。【主】に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。

この【主】の前に出て来なさいという呼びかけは誰に対して語られているかということ、悪しき者、不法な者なのです。立派なことをしている人、素晴らしいことをしている人に対して語られているのではないのです。

寧ろ、神様の前に悪を行い、【主】に従えていない者に対して語られています。

みなさん、これはすごいことなのです。

私達は当たり前のように信仰によって救われるって言います。「どんな罪人でも、何度罪を繰り返している人でも、【主】によって救われる。キリストによって救われる。」といます。でも、これを具体的に考えてみてください。

例えば最近では中国で無差別殺人的なことがいくつか起こっていますね。

例えば9月には上海のスーパーで、37歳の男性が刃物を振り回して、3人が死亡、15人が負傷しました。この11月にも広東省で62歳の男性が、約300人が運動していたスポーツセンターに車で突っ込んで、35人が死亡し、43人が負傷しました。さらには江蘇省こうそしやうの専門学校で21歳の元学生が刃物を振り回して8人が死亡、17人が負傷するという事件が起こりました。

みなさん、「このような無差別殺人をする人たちもイエス様を信じれば無条件で救われるのですか？」って言われたらどう答えます？ 私は「ドイツのヒットラーもキリストを信じていたら、救われて天国にいるのですか？」って聞かれたことがあります。みなさん、「はい。ヒットラーもキリストを信じていたら天国にいるんですよ。」って堂々といえますか？

ためらわれますよね。無差別殺人をした人も天国にいます。ヒットラーも天国にいます。って言えないし、言いたくないですよね。実際には、そういった人たちが【主】イエスキリストを信じていたとはいえないと思いますけど。もし、仮に信じていたのならば、私達はそういう人たちも天国にいます。って言わなければいけないのです。

なぜかという。【主】の約束っていうのは悪人に対して語らえたことばであり、【主】に逆らう者たちに、ダビデ契約による永遠の王が、あなたたちの王になるよ。と宣言することばだからです。

神様はどんな悪人であったとしても、悔い改めて【主】に帰るならば、豊かな赦しを与えてくださるお方なのです。これは、ある意味では私達の人間の理解をこえたものです。私達に理解しやすいのは因果応報です。

悪者は裁かれ、正しい人は報われる。だから、悪者になってはいけません。正しい者でなければいけない。これが一番わかりやすい。神様も基本的には公義を愛されるお方ですから、悪をさばき、義人に報われます。

ただ、残念なことに私達は全員罪を持っています。だから、【主】の前に出て行って、【主】に立ち返るのならば赦されるという道を作ってくださいなのです。

これは私達の思いを超え、理解を超えた。神様の恵みのご計画です。8節、9節を

読みましょう。

55:8 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。——【主】のことば——

55:9 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。

私達、人間の思考は基本的には罪人が赦されるということは受け入れられません。悪いことをした人は罰せられるべきだ。とそう考えます。

でも、神様のみこころはそんな私達の思いを超えて、罪人が赦される道を作られるのです。だから、私達は救われています。

しかも、神様は、この罪人が赦されるという、あり得ないほどの神様の愛は、自然の摂理が実行されるのと同じぐらい当たり前なことだと言われています。それが 10 節、11 節です。

55:10 雨や雪は、天から降って、もとに戻らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種蒔く人に種を与え、食べる人にパンを与える。

これ当たり前ですね。自然の恵みが地を潤し、作物を豊かにし、最終的には私達に食べ物を与える。それと同じように 11 節

55:11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。

「わたしのことば」ってなんですか。イエスキリストという永遠の王が立てられるというダビデ契約のことであり、【主】に立ち返れば、【主】があわれんで赦してくださる。という赦しの約束です。

これは雨が地を潤し、私達を豊かにするのと同じぐらい当たり前のように、私達を救い、私達に赦しを与える。必ず成就する約束なのだ。と【主】は言われています。【主】はかならず、【主】の民を救い、赦し、私達の王になってくださるので

結論) 受け入れた結果

だから、最終的に、この【主】の恵みに預かった者はどうなるかという、12節、13節。

55:12 まことに、あなたがたは喜びをもって出て行き、平安のうちに導かれて行く。山と丘は、あなたがたの前で喜びの歌声をあげ、野の木々もみな、手を打ち鳴らす。

55:13 茨の代わりに、もみの木が生え、おどろの代わりにミルトスが生える。これは【主】の記念となり、絶えることのない永遠のしるしとなる。」

【主】の救いに預かり、本当にキリストを自分の王とした者は、内側に喜びが満ち溢れて、平安に導かれるのです。ここで【主】イエスキリストを信じておられる方は、すくなくならず【主】から喜びが与えられ、平安が与えられるという経験をされていると思います。

そして、この喜びは私達だけにとどまらないのです。山も丘も野の木々もみな、喜びの歌声をあげる時がきます。つまり、世界中が【主】にある喜びが満たされて、世界そのものが【主】を賛美する時が来る。というのです。

そして、茨がもみの木に、おどろがミルトスに替わります。

茨も、おどろもトゲがあって人を傷つけるものです。それに対してもみの木とか、ミルトスというのは、建物の建材になったり、家具になったり、人に益を与えるものです。つまり、いままで皆さんを傷つけていたものが、みなさんにとって益となるものになるのだ。というのです。

そして、その新しい世界が、【主】の記念、【主】の永遠のしるしとなるのです。何の記念ですか？ 【主】が私達を愛しておられるという記念であり、しるしです。

ですから、みなさん。飢え渴きを感じておられるのならば。

自分の殻からでて、まずは【主】の前に出ていきましょう。礼拝に出席し、水曜祈禱会に出席し、【主】の前に祈る場に出ていきましょう。

【主】の約束のことばを聞きましょう。

【主】は、みなさんの王を立てると約束してくださっています。

このお方に自分の王座を明け渡して、自分の主導権を明け渡しましょう。

そのために、まずは自分の主導権を【主】が持っているのか、自分も持っているの

かを吟味してみてください。

そして、悔い改めるところがあるのならば、その罪を捨て、【主】に立ち返りましょう。【主】はみなさんの罪を赦し、豊かな恵みを与えてくださいます。

これが私達の思いを超えた【主】の恵みであり、キリストという代価によってただで私達に与えられた【主】の恵みです。

【主】は言われます。

55:1 (直訳) 「ああ、渴いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。出て来い、穀物を買って食べよ。出て来い、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。

みなさん、ただで与えられる【主】の恵みを受け取るために、まずは【主】の前に出ることを実践していきましょう。

お祈りをいたします。